

企業短期経済観測調査（道北<sup>\*</sup>地域分）  
（調査対象企業：道北<sup>\*</sup>44社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
回答社数構成比 %ポイント  
( )内は前回調査時予測

(判断D. I.)

	2017/3月	6月	9月	12月	2018/3月	6月	2018/9月 までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	12	19	20	19	14	( 16) 25	11
うち製造業	40	50	60	40	0	( 10) 30	20
非製造業	5	11	8	14	18	( 18) 23	9
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲9	▲7	▲2	0	▲5	( ▲2) ▲2	▲5
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	3	▲6	▲3	▲6	▲6	▲9	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲6	▲9	▲9	▲9	▲5	( ▲5) ▲7	▲5
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲34	▲45	▲40	▲40	▲41	( ▲44) ▲45	▲50
資金繰り < 楽である - 苦しい >	13	6	10	15	14	18	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	33	25	23	33	31	33	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲22	▲7	▲2	4	8	( 8) ▲3	10
販売価格 < 上昇 - 下落 >	2	0	2	▲7	2	( 5) 11	0
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	31	28	17	25	33	( 40) 44	44

(注) 「製商品在庫水準判断」、「資金繰り判断」および「金融機関の貸出態度判断」の「2018/9月までの予測」は調査対象外。

(事業計画)

全産業、前年度比%、  
< >内は前回調査比修正率%

	2016年度実績	2017年度実績	2018年度計画			
			上期		下期	
売上高	+0.9	+3.3 < +1.9 >	-5.5 < +1.0 >	-1.7 < +1.3 >	-8.9 < +0.7 >	
経常利益	+44.1	-3.7 < +9.5 >	-37.8 < -11.8 >	-35.7 < +0.1 >	-40.4 < -24.3 >	
当期純利益	+49.0	+16.4 < +12.0 >	-37.3 < -10.1 >	-32.5 < +9.1 >	-44.9 < -33.0 >	
設備投資額	+0.6	+75.7 < -2.9 >	-64.3 < -10.5 >	-64.1 < -8.0 >	-64.6 < -13.7 >	

## 道北地域の企業短期経済観測調査結果（2018年6月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 44 社（製造業 10 社、非製造業 34 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 44 社）
- 回答期間：2018 年 5 月 29 日～6 月 29 日

### 1. 業況判断 DI

- 6月の業況判断 DI（全産業ベース）は+25。前回3月調査に比べて改善した（前回+14、前环比+11ポイント）。
  - 製造業の業況判断 DI は+30。食料品、木材・木製品や電気機械の改善を主因に前回調査比改善した（前回±0、前环比+30ポイント）。
  - 非製造業の業況判断 DI は+23。卸・小売やサービスで悪化したものの、建設関連や運輸で好転したことから、前回調査比改善した（前回+18、前环比+5ポイント）。
- 先行きの業況判断 DI は、悪化を予測（2018年9月までの予測：+25⇒+11）。
  - 製造業は、食料品で悪化を見込んでいることから、全体でも悪化する見込み（+30⇒+20）。
  - 非製造業は、サービスで改善を見込むものの、建設関連で悪化を見込む先が多いことから、全体では悪化する見込み（+23⇒+9）。

### 2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超過－供給超過〉」（▲5⇒▲2）は、建設関連の一部と運輸での需要増加を主因に供給超幅が若干縮小した。先行きは建設関連や卸・小売で需要の減少を見込む先がみられることから、全体では供給超幅が若干ながら再び拡大する予測（⇒▲5）。「製商品在庫水準判断 DI〈過大－不足〉」（▲6⇒▲9）は、食料品や建設関連の一部を中心に不足超幅が拡大。
- 「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉」（▲5⇒▲7）は、建設関連の一部で不足感が高まったことから、不足超幅が小幅拡大。先行きは不足超幅が小幅縮小する見通し（⇒▲5）。

- 「雇用人員判断 DI<過剰ー不足>」(▲41⇒▲45)は、引続き幅広い業種で不足と回答する先がみられた。先行きも、不足超幅がさらに拡大する見通し(⇒▲50)。
- 企業を取り巻く金融環境についてみると、引続き緩和された状態が続いている。金融機関の貸出態度の「緩い」超幅と資金繰りの「楽である」超幅がともに拡大した(「金融機関の貸出態度判断 DI<緩いー厳しい>」: +31⇒+33)、(「資金繰り判断 DI<楽であるー苦しい>」: +14⇒+18)ほか、借入金利水準も3期ぶりに低下超に転換した(「借入金利水準判断 DI<上昇ー低下>」: +8⇒▲3)。
- 「仕入価格判断 DI<上昇ー下落>」(+33⇒+44)は、資材価格、燃料価格や人件費の上昇を背景に、建設関連を中心に上昇超幅が大幅に拡大。先行きは上昇一服となる見込み(⇒+44)。「販売価格判断 DI<上昇ー下落>」(+2⇒+11)は、建設関連や運輸を中心に値上げに成功する先がみられたことから、上昇超幅が拡大。先行きは、こうした値上げの動きは一服となる見込み(⇒±0)。

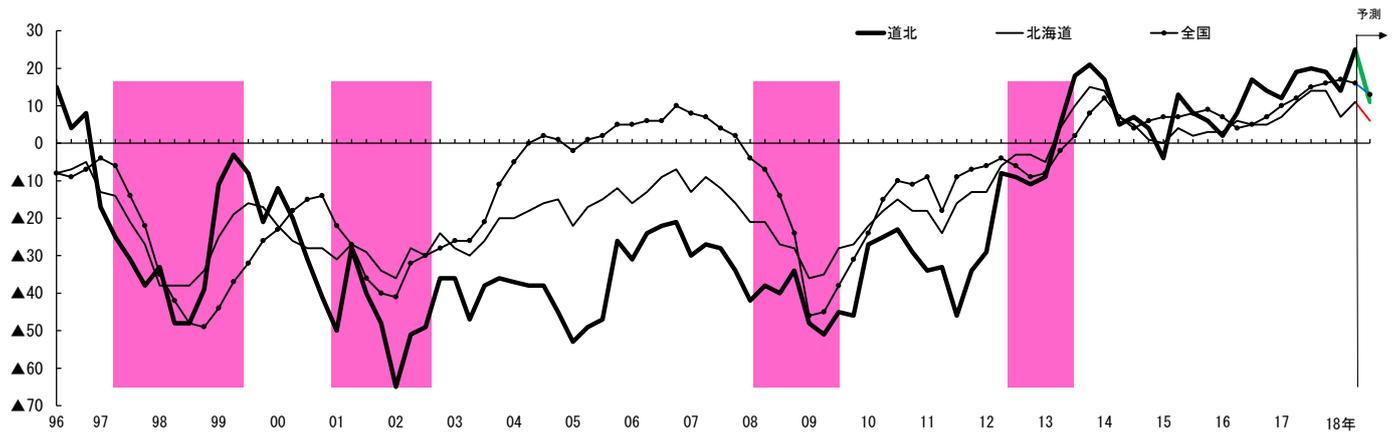
### 3. 事業計画

- 2017年度の実績は、売上高は前年度比+3.3%と小幅増加。経常利益は同▲3.7%、当期純利益は同+16.4%で着地。設備投資額は同+75.7%の大幅増加となった。
- 2018年度の計画は、売上高は前年度比▲5.5%、経常利益は同▲37.8%、当期純利益は同▲37.3%、設備投資額は同▲64.3%となっている。

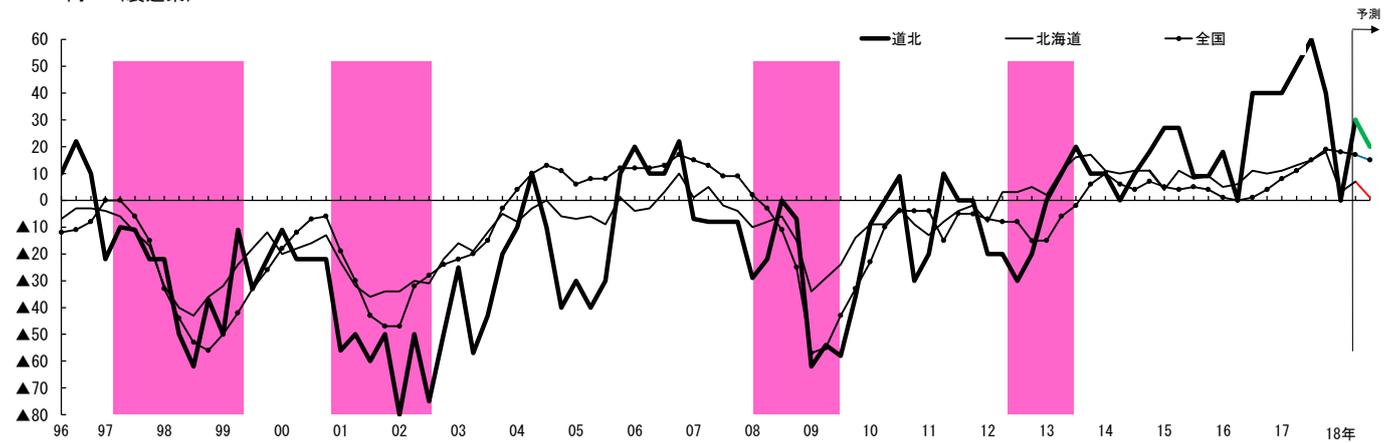
以 上

## 2018年6月短観・調査結果

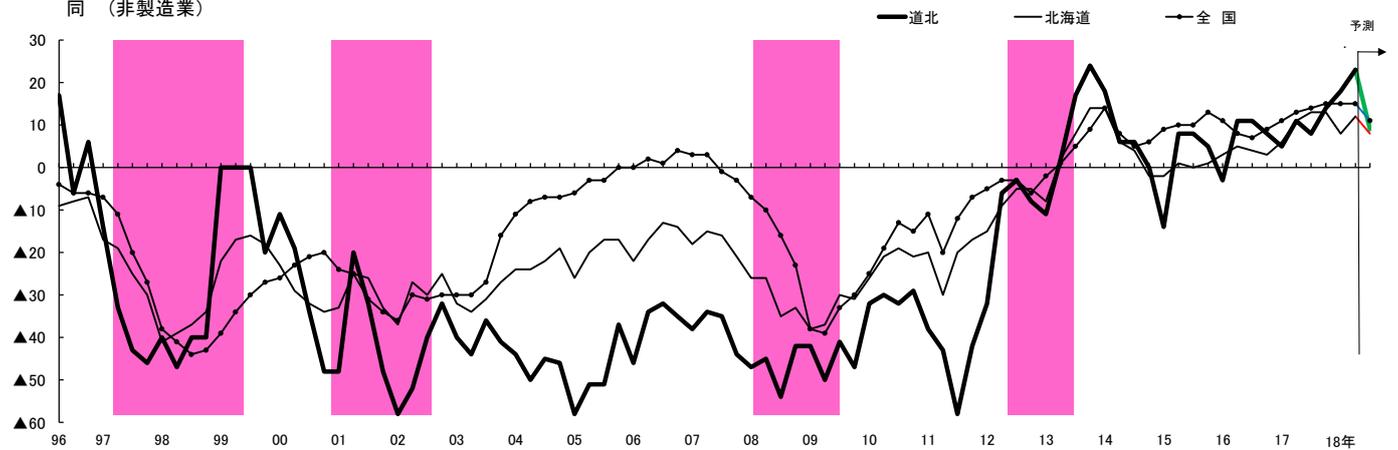
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)

道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

全国、北海道は2017/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2017/12月以降は見直し後の新ベース。

ピンクシャドーは景気後退期（内閣府調べ）